

会議名	平成 29 年度第 2 回板橋区地域自立支援協議会		
開催日時	平成 29 年 11 月 13 日（月） 10：00 ～ 12：00		
開催場所	板橋区役所南館 4 階 災害対策室 A・B		
参加者	<p>【委員等 12 名】是枝会長、石川副会長、木下委員、會田委員代理中澤氏、小島委員、米山委員、片山委員、内田委員、中山委員、清水委員、鈴木委員、峰松委員</p> <p>【オブザーバー 3 名】水田予防対策課長、坂井おとしより保健福祉センター所長、大澤志村福祉事務所長</p> <p>【事務局 8 名】小池福祉部長、星野障がい者福祉課長、保泉管理係長、森山管理副係長、櫻井地域生活推進係長、松田、荒井、砂川</p>		
会議の公開	公開（傍聴）できる	傍聴者数	3 人
次第	<p>1. 開会・会長挨拶</p> <p>2. 報告事項</p> <p>(1) 平成 29 年度第 1 回・第 2 回相談支援部会報告</p> <p>(2) 平成 29 年度第 1 回障がい当事者部会報告</p> <p>(3) 平成 29 年度第 1 回障がい児部会報告</p> <p>(4) 平成 29 年度第 2 回高次脳機能障がい部会報告</p> <p>(5) 平成 29 年度第 1 回権利擁護部会報告</p> <p>(6) 板橋区障がい福祉計画について</p> <p>3. その他</p> <p>4. 閉会・副会長挨拶</p>		
配布資料	<p>資料1 平成 29 年度第 1 回・第 2 回相談支援部会報告書</p> <p>資料2 平成 29 年度第 1 回障がい当事者部会報告書</p> <p>資料3 平成 29 年度第 1 回障がい児部会報告書</p> <p>資料4 平成 29 年度第 2 回高次脳機能障がい部会報告書</p> <p>資料5 平成 29 年度第 1 回権利擁護部会報告書</p> <p>資料 6-1 障がい福祉計画 中間のまとめ 概要版</p> <p>資料 6-2 障がい福祉計画 中間のまとめ</p> <p>資料 6-3 障がい福祉に関する区民意向調査 調査結果報告書</p>		

1 開会・会長挨拶

是枝会長より開会の挨拶が行われた。

2 報告事項

(1) 平成 29 年度第 1 回・第 2 回相談支援部会報告

中山委員（相談支援部会長）より、資料 1 のとおり報告が行われた。

(2) 平成 29 年度第 1 回障がい当事者部会報告

鈴木委員（障がい当事者部会長）より、資料 2 のとおり報告が行われた。

○神奈川県津久井やまゆり園再建についてのシンポジウムに出席した。

施設の再建にあたっては、厚労省が策定した意思決定支援ガイドラインを基本とし、当事者の意見を聞いて施設をつくるという方向性となっている。当事者の意見を中心に考える流れが今後定着すれば、と感じた。

(3) 平成 29 年度第 1 回障がい児部会報告

米山委員（障がい児部会長）より、資料 3 のとおり報告が行われた。

(4) 平成 29 年度第 2 回高次脳機能障がい部会報告

會田委員代理中澤氏（高次脳機能障がい部会員）より、資料 4 のとおり報告が行われた。

(5) 平成 29 年度第 1 回権利擁護部会報告

木下委員（権利擁護部会長）より、資料 5 のとおり報告が行われた。

(6) 板橋区障がい福祉計画について

事務局より、資料 6 のとおり報告が行われた。

<質疑・意見等>

○児童発達支援センターの設置について、福祉圏域で人口比などにより必要数を考えていると思われるが、どのぐらいの比率で計算しているのか。

→現在区内には 2 か所あるが、待機の方が多し現状などを踏まえ、年間の相談件数等も鑑みて設置を検討する。少なくとも 2 か所以上は必要であると考えている。

○切れ目のない支援の実現のため、総合的な相談のできる窓口や、身近な相談窓口が必要であると感じた。

○大人の発達障がいに対する支援についての話し合いの場も必要である。

○地域移行・地域定着などの見込み数についてはどのように考えているのか。

→計画策定という事で人数を記してはいるものの、当事者本人の意思等も関わってくるので、数ありきというわけにはいかない分野であると考えている。実務を行う事業所等からも助言をいただき考えていきたい。

○重症心身障がい、医療的ケア児のお子さんがある保護者の方は、在宅レスパイトを求めている。在宅レスパイト事業について、検討と記載があるが、今後実施の予定はあるのか。

議事内容

→以前は、受け皿が無いため実施できないという話をしていたが、一部医療機関で可能になりそうだという話を聞いている。その事も踏まえて、現在検討を進めているところである。

○ソーシャルインクルージョンの視点から、放課後等デイサービスやあいキッズの連携について検討するという記載がある。その連携の際に、学校の教員なども加え、学齢期の過ごし方などを考えていければと思う。

○ライフサイクルに応じた支援という事で、ようやく児童期に視点が置かれるようになってきた。一方で、障がいのある方、特に知的障がいの方の高齢期への境目についてはまだあいまいな部分もある。高齢期の障がい者への支援の在り方についても検討していくべきである。

→障がい特性等もあり一概には言えない部分もあるが、今後検討していく必要があると考えている。

3 その他

障がい福祉計画の中間のまとめに対してのパブリックコメントの実施について周知した。

4 閉会・副会長挨拶

石川副会長より、閉会の挨拶が行われた。